

グリーン産業株式会社 代表取締役 荒川 ^{よしかつ} 義克 氏

GREENを通じて人と街に潤いと楽しさ、暮らしの安全を届けたい



PROFILE

新潟市出身。大学卒業後、投信・投資顧問会社に入社したのち、2004年にグリーン産業に入社する。2010年に代表取締役就任。そのほか、(一社)新潟市造園建設業協会 代表理事 理事長、新潟経済同友会 環境・健康委員会 委員長などを務める。

総合緑化企業として、暮らしの安全を守る防災工事から、やすらぎや楽しさを与える公園・施設の提供、管理運営などをトータルで手掛けるグリーン産業。会社の礎を築いた父・先代社長の志を引き継ぎながら、新たな挑戦を続ける荒川社長にお話を伺いました。



グリーン産業株式会社

〒950-0983

新潟市中央区神道寺 2 丁目 2 番 10 号

TEL : 025-242-2711

<https://www.green-s.co.jp/>

子どもの頃から父である社長と社員の距離が近いのを見てきたので、私も人を大事にする心や、みんなで助け合う精神を大切にしています

防災工事から緑の環境づくりまで幅広い事業を展開

1971年に創業したグリーン産業は、緑化資材の製造販売からスタート。その後、時代のニーズに応えながら“緑を基軸にした”幅広い事業を展開してきた。「のり面保護工事や橋、トンネルなどのコンクリート補修工事を行う“防災事業”、公園や緑地工事、各施設のメンテナンスを行う“環境事業”、行政に代わる公共施設の指定管理運営及びキャンプ場や温泉施設などを提供する“運営事業”と現在は3つの事業を柱にしています」と荒川社長。近年は造園土木建設業に加え指定管理業務に力を入れ、公園やゴルフ場、スポーツ・観光施設など県内外約65カ所の施設の管理運営を行うなど、緑化事業で培った技術と経験を活かしている。

芝に関する技術力が高い評価を受け各種スポーツ施設を維持管理

同社はゴルフ場の造成工事を20カ所近く手掛けてきたことから、芝の造成・管理において高い技術力とノウハウを蓄積。その実績を見込まれて依頼されたのが、1996年のJRA新潟競馬場の芝張り替え工事だった。「昼夜に及ぶ作業をしないと間に合わない状況だったようですが、この難工事が評価されて新潟競馬場の幅広い施設管理を任せていただけるようになりました」。さらに、2001年に完成した新潟スタジアム（現デンカビッグスワンスタジアム）でも、ピッチのメンテナンスを担う。屋根によって風通しが悪く、高温多湿の環境下にあるため、夏場の芝生管理が特に難しいとされているが、調査結果に基づいた肥培管理



©デンカビッグスワンスタジアム

同社が指定管理を行う「いくとびあ食花」。園内の植物の維持管理から、イベントや体験学習・講座の企画運営なども行っている。

「デンカビッグスワンスタジアム」。ハイレベルのピッチコンディションを保つため、気象変動や病害に強い健全な芝生作りに努めている。



や温度対策などに取り組むことで、「Jリーグ ベストピッチ賞」をこれまで6度受賞している。

海岸地域の飛砂被害を防止する「はまみどり工法」を普及させたい

53年に渡る歴史を振り返り、「当社は前社長の時代からチャレンジ精神が強かったと思います。できないと言わず、できるように考えてチャレンジする。それが現在の事業に繋がっているのではないのでしょうか」と荒川社長。次なる挑戦として、独自に開発した海浜緑化工法「はまみどり」の全国普及に力を入れていきたいという。「砂浜に在来する植物の生長を促し、緑化することで海岸地域の飛砂被害を防止する、生態系と環境にやさしい工法で、SDGsにも繋がります。また、のり面などの緑化を目的にした“やまみどり工法”も国土交通省のグリーンインフラ創出促進事業に選定され、県内で実験を行う予定です」。

環境保全をはじめ、指定管理施設での環境教育や体験教室、県民が楽しめる施設づくりなどを通して地域社会に貢献する同社。これからもGREEN LIFE創造企業として、多くの人に笑顔と安心を提供していくとともに、新潟商工会議所の事業活動含め地域活性化に貢献していく。



「はまみどり」は飛砂被害に悩む海岸部や、海岸植生を復元したい砂浜などに有効な緑化工法。キノコの廃菌床などが入った植生基盤材のマットを砂浜に埋めると、地表に自生植物が繁茂し、飛砂を減らすことができる。